

# GPS活用の「情報化施工」 高規格道路で見学会 帯開建、土木業者に説明

【中札内】帯広開発建設部は19日午後2時、高規格道路・帯広広尾自動車道の改良工事現場(中札内村栄東3線)



GPSによる転圧管理システムを導入した工事現場を見学する参加者

で、GPS(全球測位システム)などを活用し効率性や精度を高める「情報化施工」の見学会を開いた。

従来の機械化施工に対し、TS(電子式測距測角儀)やGPSなどの情報化技術を活用することで工事の生産性を高め、品質確保を図る手法。安全確保や熟練労働者不足解消の手段としても注目され、国交省は2008年から普及を促している。管内では中鹿追地区など5工事現場で採用されている。

見学会には土木業者や開建職員ら約90人が参加した。GPSによる転圧管理システムを採用している宮坂建設工業(帯広市、宮坂寿文社長)の現場が会場となり、専用システムを使って転圧回数や軌跡管理をモニターで確認する様子が説明され、振動ローラーによる転圧作業の実演も行った。

帯広開建の加藤信二施設整備課長は「作業効率は1割程度アップすると考えられるが、データが少なへコストについてはっきりしたことと言えないのが現状。見学会を契機に

少しでも多くの現場に広がれば」と話していた。

(大飼裕二)